

緊急技術情報(麦類)

暖冬のため麦に凍霜害発生の恐れ -麦踏みをしましよう-

平成19年1月17日
県立農業技術センター 土地利用研究部

【気象および生育概況】

麦の播種以降、暖冬により生育は近年になく旺盛となっています。1月15日の草丈・茎数・葉齢・幼穂長・幼稈長の値は昨年と比べてかなり高くなっています(表1)。広島地方气象台(1月12日発表)の1か月予報では、気温が高い確率は60%となっており、このまま暖冬傾向が続くと考えられ、品種によっては早期茎立ちにより凍霜害が発生し、減収する恐れがあります。

このため、麦踏みを行って生育を抑制し、幼穂凍死を防ぎましよう。

表1 麦の生育状況(農業技術センター:標高224m)

品 種	年 次	12月1日			1月15日			幼穂長 mm	幼稈長 mm
		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 枚	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 枚		
ミナミノカオリ	本年	13.4	233	3.0	21.5	767	5.4	1.8	5.7
	前年比・差	0.6	78%	0.2	6.8	117%	1.2	244%	238%
キヌヒメ	本年	12.9	150	3.1	13.2	1100	6.1	0.4	2.5
	前年比・差	0.9	83%	0.0	0.6	197%	1.7	119%	113%
ふくさやか	本年	13.3	257	3.1	22.9	730	5.6	1.6	3.9
	前年比・差	0.2	115%	0.0	9.8	121%	1.2	254%	177%
さやかぜ	本年	9.1	150	2.6	12.2	737	5.6	1.5	3.1
	前年比・差	0.8	92%	-0.1	2.7	171%	1.4	164%	163%
すずかぜ	本年	9.5	150	2.5	13.7	650	5.4	1.3	2.7
	前年比・差	-0.2	64%	-0.5	3.5	164%	1.1	173%	149%

【麦踏みの方法】

麦踏み用の鎮圧ローラーや古タイヤ等を利用して、2月の節間伸長期までに1-2回程度、15-20日間隔で圃場が乾燥している日を選んで行います。一方向のみとし、往復踏みはしません。土壤が湿った状態で麦踏みをすると土が締まり、かえって生育を阻害しますので、このような場合は作業を省略します。また、湿害により生育が悪い場合や、晩播により分けつの発生が遅れている場合も作業を省略します。

麦踏みには幼穂の凍害防止の効果以外に、土壤を固めて株支持力を高めることで倒伏防止にかなり効果があるので、特に乾きにくい圃場においては、時期を失しないよう少なくとも1回は行いましょう。

問い合わせ先:農業技術センター土地利用研究部(082-429-2418, 担当者:浦野)

[HOME](#) | [BACK](#) |